



JCHO × ニュース

Japan Community Health care Organization

2014 SUMMER 夏号 | ジェイコーニュース | vol.02

独立行政法人地域医療機能推進機構

CONTENTS

- P.02 【ニュース】 JCHO発足
- P.03 【特集】 院長メッセージ
- P.07 【連続企画】 看護部長に聞く
横浜保土ヶ谷中央病院 看護部長 吉澤 壽子
四日市羽津医療センター 看護部長 田中 敬子
大阪病院 看護部長 高橋 弘枝
企画経営部患者サービス推進課長 望月 律子
理事(広報担当) 前野 一雄
- P.10 【トピックス】
浪江町と医療・健康管理に関する
連携・協力の支援協定を締結
活動報告
二本松病院 リハビリテーション士長 江井 洋
二本松病院 栄養管理室長 渡部 淳子
うつのみや病院 健康管理センター 平川 隆一
- P.11 【トピックス】
日本医師会を表敬訪問
- P.12 【トピックス】
総合診療医の取り組み
研修センター長・総合診療教育チームリーダー 徳田 安春
星ヶ丘医療センター 呼吸器内科部長／総合診療部副部長 中村 孝人
医療担当副部長 長濱 誉佳
- P.14 【インフォメーション】
院内のパソコン(PC)で
Web会議をしてみませんか
総務部IT推進課
- P.15 【投稿】
埼玉メディカルセンター
地域包括センターの取り組み
埼玉メディカルセンター 地域包括支援センター長 松本 由美子
- P.16 【JCHO GROUP】 全国病院MAP



浪江町と医療・健康管理に関する連携・協力の支援協定を締結

特集

JCHO全国57病院 院長メッセージ

平成26年4月にスタートを切ったJCHO病院は全国に57病院。
JCHO病院の今とこれからについて、病院長からメッセージ。

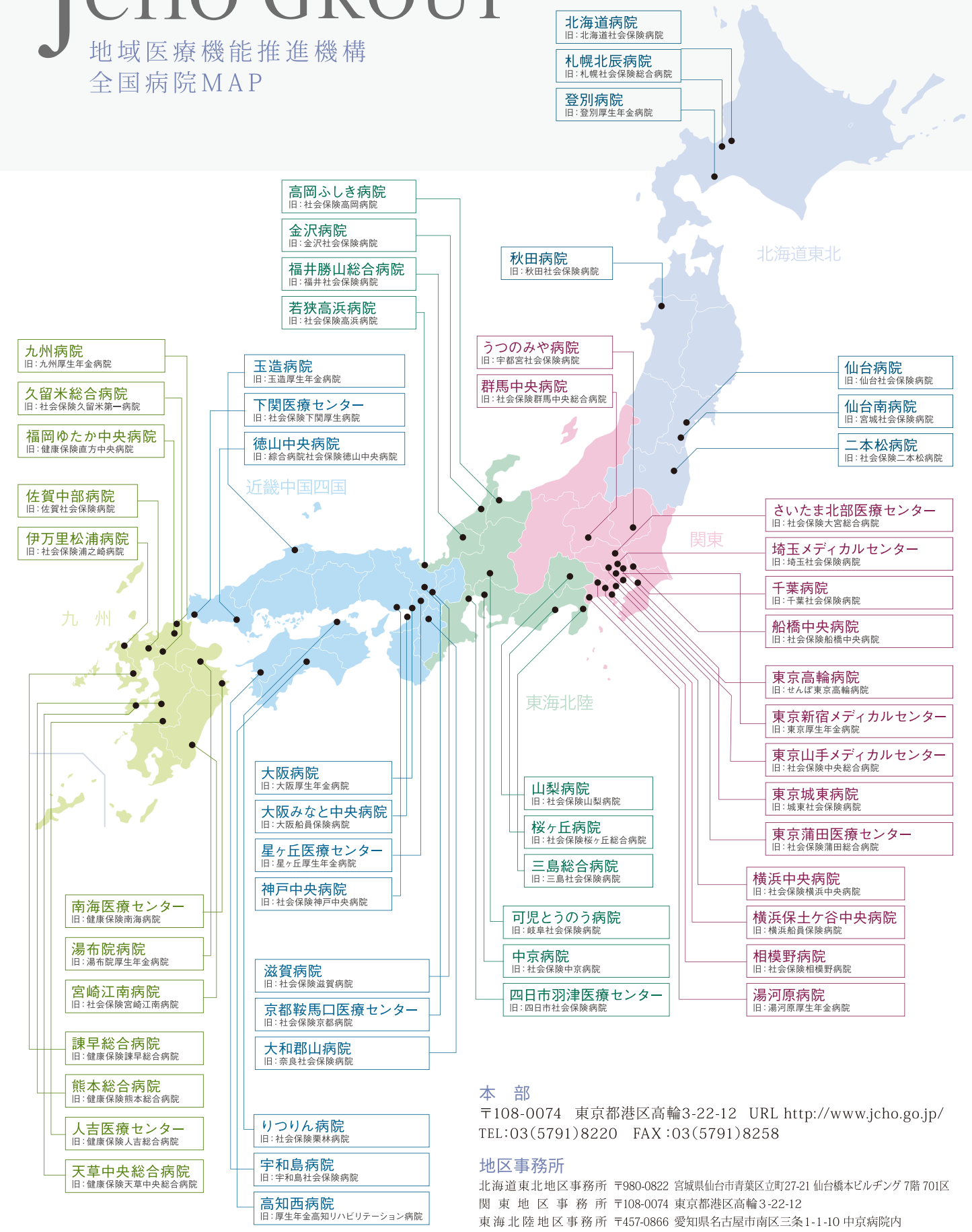
連続企画

看護部長に聞く 今、JCHOが目指すもの

JCHO × ニュース
【ジェイコーニュース】 2014 SUMMER 夏号 vol.02
独立行政法人地域医療機能推進機構 〒108-0074 東京都港区高輪3丁目22番12号 TEL:03-5791-8220

JCHO GROUP

地域医療機能推進機構
全国病院MAP



本 部
〒108-0074 東京都港区高輪3-22-12 URL <http://www.jcho.go.jp/>
TEL:03(5791)8220 FAX:03(5791)8258

地区事務所

北海道東北地区事務所 〒980-0822 宮城県仙台市青葉区立町27-21 仙台橋本ビルディング 7階 701区

関 東 地 区 事 務 所 〒108-0074 東京都港区高輪3-22-12

東 海 北 陸 地 区 事 務 所 〒457-0866 愛知県名古屋市中区三栄1-1-10 中京病院内

近畿中国四国地区事務所 〒573-0013 大阪府枚方市星丘4-8-6

九 州 地 区 事 務 所 〒806-0034 福岡県北九州市八幡西区岸の浦1-8-1 九州病院内

JCHO 全国57病院 院長メッセージ

平成26年4月にスタートを切ったJCHO病院は
全国に57病院あります。

JCHO病院の今とこれからについて、
病院長からメッセージが届きました。

director Message



院長 石岡 隆

秋田病院

地元では3番目の規模の輪番制二次救急医療機関ですが、立地条件と接遇の評価を武器として常勤医13名でやっています。働きがいのある、地域の皆様に支えられる病院づくりを目指します。



院長 六角 裕一

二本松病院

病院がJCHOになり、私も新院長に任命されました。その途端、定年退職などで当院の常勤医師が6名になってしまいました。中小病院とはいえこれで仕事になるのかと思いますが、みんなのためになるよう頑張ります。



院長 草野 英二

うつのみや病院

医師はすべからく総合と専門を併せ持つT字型医師を目指すべしと訴えています。また、地域医療に挺身する医師やスタッフの確保は、我々がいかに魅力あふれる病院づくりや仕事環境を提供できるかが勝負であると思います。



院長 田代 雅彦

群馬中央病院

当院は競合する病院がひしめく前橋市にあります。産科の充実、外科は消化器、整形は膝・脊椎などと診療科はそれぞれに特化した診療を行っており、健康管理センター、老健施設も併設しております。私は小児科医です。



院長 宗像 博美

さいたま北部医療センター

当院の特徴は、①病床数163床だが外来患者数は711人/日、②休日夜間急患センター運営（小児時間外急患58人/日）、③在宅医療支援病院、④訪問診療・365日対応訪問看護、です。機能拡充のため新築移転の準備中です。



院長 河田 哲也

北海道病院

札幌南地区の急性期病院として、地域の医療・保健・介護をシームレスに支えています。JCHOの一員として、地域医療支援・医療者を育てる教育・広い北海道の僻地支援など多くの説明責任を果たしてまいります。



院長 佐々木 文章

札幌北辰病院

札幌副都心『新札幌駅』すぐ近くに位置し、地下鉄、JR等交通の便に恵まれています。健管センターや総合診療科を早くから設置し、JCHO最北の病院として、地域に根差し地域住民の健康を支える病院を目指しています。



院長 井須 和男

登別病院

4月よりJCHO登別病院院長に赴任いたしました。新米で病院の状況を把握するのに汲々としています。想定外の事態が次々と明らかになり前途は多難ですが、明けない夜はないとの思いで前向きに進みたいと思います。



院長 田熊 淑男

仙台病院

平成23年の大震災での建物の半壊も何とか凌ぎ、波乱含みの移行作業も何とか終え、ただひたすら一刻も早い新築移転を待ち望んでいる、粘り強くおらかな気質と言われる東北人の職員一同であります。



院長 石井 元康

仙台南病院

入院患者の平均年齢と平均在院日数が漸増しており、地域包括ケア病棟を導入する予定です。紹介患者受け入れ、急性期治療、地域包括ケア病棟での亜急性期治療、そして老健で在宅評価する流れを作りたいと思います。



JCHO発足

新機構の下、地域医療の新たなブランドを目指そう

4月1日 JCHO発足

平成26年4月1日、独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）が発足しました。本部、各病院ではそれぞれ理事長、各院長から職員に向けてJCHO発足の挨拶が行われました。各病院では院長の挨拶の際、尾身茂理事長からのビデオによるメッセージが職員に伝えられました。理事長からのメッセージにありましたように、「新たな旅立ちの始まり」です。



4月1日 JCHO 発足の挨拶（本部）

4月18日 第1回月例役員会議

JCHOでは、毎月最終金曜日に本部で月例役員会を開催することとなりました。メンバーは、理事長、常勤理事、非常勤理事（5地区の地区理事：計5名）、地区理事補佐職（計11名）の方々などです。第1回は4月18日に顔合わせを兼ねて開催され、以降の月例役員会議でもJCHOグループの運営方針、運営状況等について熱心な意見交換がなされています。

なお、月例役員会議の資料は、JCHOnetのJCHO掲示板に掲載しています。



4月18日 第1回 JCHO 院長会議（本部）

4月18日 第1回JCHO院長会議

JCHO全院長による第1回のJCHO院長会議が月例役員会議の後、本部で開催されました。冒頭に厚生労働省の原医政局長からご挨拶をいただき、理事長からは「チームJCHO発足に当たって」と題した挨拶がありました。その後、各院長から個性豊かな自己紹介、所信等が述べられ、会場は和やかな雰囲気となりました。

6月6日 事務部長等・看護部長等会議

6月6日には、事務部長等・看護部長等会議が本部で開催されました。冒頭に理事長より、魅力ある病院となるよう力を注いでいただきたい等の訓示がありました。会議では、月次決算の状況等について報告がされ、活発な意見交換がなされました。



院長 山崎 芳郎

大阪病院

民から官への移行や新旧交代人事に伴う一種のカルチャーショックからいち早く脱却し、来春竣工の新病院へ向けて、従前の急性期医療（5疾病4事業）拡充とJCHO本来の使命である地域連携推進を職員と共に実践する心意気です。



院長 別府 慎太郎

大阪みなと中央病院

当院は大阪湾に接した病院です。戦後の海運国日本を担う船員たちの保険事業の一環として設置されました。時は流れ、近くに「海遊館」や「USJ」ができた今は、この機構の下で住民のための病院を新築移転することを目指しています。



院長 杉本 壽

星ヶ丘医療センター

新生JCHOの一員として旅立って早くも3ヶ月が過ぎようとしています。過渡期の混乱の中で方向性を見失わないように、しっかりと舵を取り、目標に向かって進みたいと思います。新しい組織文化の芽生えを感じます。



院長 大友 敏行

神戸中央病院

神戸は海のイメージですが、当院は神戸市北区、六甲山中腹の住宅地の中心にあります。ただ病院の最上階からは遠く関西空港や瀬戸大橋も見渡せます。検診施設、老健施設、看護学校など様々な附属施設を持っています。



院長 鳶原 康行

大和郡山病院

社会保険病院等の存続問題では風評被害で苦戦を強いられました。JCHOへの移行は新たな船出であり大いに期待しています。JCHOの一員としてブランド力を付け、医師数も早急に回復することを切に願います。



院長 三河 義弘

玉造病院

鳥根県松江市にあり、JCHOの中でも特異な「整形外科専門病院」で、人工関節と脊椎手術、リハビリに特化した病院です。JCHO病院過疎地域である山陰地方にボツンとありますが、ご厚誼の程宜しくお願いします。



院長 佐々木 功典

下関医療センター

下関市内には、当院より規模の大きい公的病院が他に3施設あります。このような厳しい状況ではありますが、地域に信頼され、市民から親しまれる特徴ある医療機関に発展すべく、職員一同新体制の下で頑張っています。



院長 井上 裕二

徳山中央病院

“求められれば断らない”という行動規範が浸透しています。赴任後の消防本部、医師会等、挨拶で念を押されたのは“JCHOに移行しても診療体制は変わらないのですね”。地域からの信頼、就任3ヶ月の率直な印象です。



院長 中澤 正樹

山梨病院

誰でもいつでも気持ちよく安心してかかれる病院を目指し、患者・家族の方々との共感、チーム医療による職員協働、他施設との連携のもと、新病院の環境で各診療科専門領域と幅広い疾患の診療、健診に力を尽くします。



院長 岸田 喜彦

可児とうのう病院

当院が所在する可児市は岐阜県でも南端に位置し、愛知県犬山市と隣接しています。4月の院長会では、「可児とうのう」は「馬耳東風」をもじったのかと聞かれましたが、「かじ」ではなく「かに」と呼んでください。



院長 島田 孝夫

桜ヶ丘病院

静岡市清水区の基幹病院として地域連携に努め、救急医療や災害時医療の重責を担っています。今後は地域包括ケアの推進が重要と位置づけています。現在、建築後50余年が経過した施設の新築移転を目指しています。



院長 武井 秀憲

三島総合病院

三島総合病院（MGH）で3度目の病院長です。東医歯大昭和50年卒で脳神経外科出身です。長野県の生まれですが静岡県在住が最も長くなりました。県東部は医師不足が顕著で目指すべき地域の医療に苦勞しています。



院長 絹川 常郎

中京病院

「地域を見つめ、地域の声を聞き、地域とともに歩みます。」というメッセージのもと、名古屋市南部の重要な急性期総合病院として5疾病5事業は当然のこと、これまで築いてきた特徴ある医療も継続発展させます。



院長 住田 安弘

四日市羽津医療センター

社会的要請に応じ、包括ケア病棟やハイケアユニットの導入を策定し、地域へ質の高い医療を提供していきます。そのため近隣医療機関および地区医師会との密接な連携が必要であり、機構の絶大なる支援をお願いします。



院長 長尾 昌壽

滋賀病院

「患者さんにとって自分が大切にされていると感じられる病院。職員にとっても仕事することに充実感が感じられる病院。心の底から自然に笑顔があふれる病院」を見据えて、JCHO病院の使命達成に努めて参ります。



院長 能見 伸八郎

京都鞍馬口医療センター

JCHOに生まれ変わり、病院名も当地域に長く親しまれて来た昔の名へと戻りました。古いものが多い京都で、新しい息吹を取り入れ、地域密着の新しい病院へと変革し、超高齢社会に向けてその使命を果たしたいと思います。



院長 大道 久

横浜中央病院

地域の高齢化の進行を受けて、昨年から総合診療病床による受け入れや、在宅療養支援の方針を明確にして「地域ケアサービスセンター」を立ち上げました。現在、「地域包括ケア病棟」の導入に向けて取り組んでいます。



院長 後藤 英司

横浜保土ヶ谷中央病院

4月1日に横浜市立大学から赴任しました。病院は横浜国大のキャンパスに隣接し緑に囲まれた丘の上にあります。260床の総合病院で、外国船も含む船上での病人発生に対し24時間体制で無線医療助言をしています。



院長 内野 直樹

相模野病院

夏になり、そして悲しい秋が来て、「恐怖の大王が空から降ってくる（7:1神話の崩壊）」予感がします。相模野は、どんな時でも「コンプライアンスと黒字の両立」を旗印に残ります。



院長 高取 吉雄

湯河原病院

昭和21年に整形外科療養所として温泉地「湯河原」に設立され、現在は整形外科・リウマチ科・内科・形成外科が主体です。社会人向けの滞在型健康教育施設「健康増進ホーム」が併設され、温泉を活用しています。



院長 加藤 弘巳

高岡ふしき病院

大伴家持が5年過ごした万葉の故地。北前船で栄えた港町。工業地帯で名を馳せた昭和。伝統引き継ぐ「げんか山車（やま）」。人口1万余の伏木・太田は高齢者憧れの地として今甦ります。JCHO高岡ふしき病院が地域を支えます。



院長 喜多 一郎

金沢病院

「新しい金沢、はじまる」―来年春の新幹線開業に向けて地域が盛り上がっています。金沢駅から2kmにある当院は、住民の生活変化に応じた急性期医療の更なる質向上と老健・居宅介護・訪問看護の連携を目指します。



院長 兜 正則

福井勝山総合病院

当院は、世界三大恐竜博物館や日本有数のスキー・ジャム勝山を有する福井県勝山市にある奥越地域唯一の公的基幹病院です。急性期医療から介護まで切れ目のない良質なサービス提供で地域医療と雇用を支えています。



院長 河野 幸裕

若狭高浜病院

前院長と共に日本プライマリ・ケア連合学会の指導医資格を取得して、福井大学、京都大学や、神戸中央、可児とうのう、中京病院などからの研修医や学生に対してJCHOの掲げる地域医療と教育を実践しています。



院長 細田 洋一郎

埼玉メディカルセンター

JCHO埼玉メディカルセンターは政令指定都市さいたま市の中核病院で、395床の急性期病院と健診を行うセンターと介護老人保健施設を併せ持つ地域包括ケアに最適な施設です。建て替え工事中でまもなく新病院の完成です。



院長 室谷 典義

千葉病院

当院は、病床数200床の小規模病院です。近隣に国立病院等5つの大病院があり、過激な競合の中で医療を行っております。当院は腎不全医療を軸に近隣病院が診たくない患者を診るという姿勢を示していきます。



院長 高橋 誠

船橋中央病院

新機構の初年度であり、病院の目標として、地域医療の推進：JCHO使命の周知と実践、規程・規則の理解と遵守としました。それでも当面の課題は、隣接土地の取得・新病棟の建設・旧耐震の古い病棟解体の具体化です。



院長 木村 健二郎

東京高輪病院

前院長の与芝真彰先生の方針を引き継ぎ、JCHOの理念にそって当院を発展させたいと願っています。そのために、全職員が自らの力を充分に発揮し働きがいを実感出来る病院を目指したいと思っています。



院長 谷島 健生

東京新宿メディカルセンター

がん診療（都認定がん診療病院）、糖尿病、脊椎疾患、脳卒中（血管内治療）、心筋梗塞、網膜硝子体手術、人工関節手術などに力を注いでいます。24時間対応の救急診療、回復期リハビリにも積極的に取り組んでいます。



院長 万代 恭嗣

東京山手メディカルセンター

少子高齢化社会へ向け医療法改正と病床機能報告制度、診療報酬改定、消費税アップ等、激変ともいえる環境変化です。これに新機構移行が加わりました。人が最重要の医療に特化した法人の在り方も考えてゆきます。



院長 中馬 敦

東京城東病院

当院は、130床と小規模ですが、小規模病院でしかできない地域に必要とされる良質な医療ができるよう努力してまいります。職員全体がチームワークを大切に、いつも元気で笑顔を絶やさない病院であり続けたいです。



院長 吉川 治

東京蒲田医療センター

大田区蒲田医師会の地区に存在する唯一の公的な都市型中規模病院です。総合診療医を養成し都市型包括ケアの要となり、大規模急性期病院および小規模病院や在宅診療を行っている診療所との連携を深めていきます。

今、JCHOが目指すもの

前野 一雄
まえの かずお

田中 敬子
たなか けいこ

吉澤 壽子
よしざわ としこ

高橋 弘枝
たかはし ひろえ

望月 律子
もちづき りつこ

理事（広報担当）
読売新聞社、
国際医療福祉大学教授を経て、
2014年4月より現職。

四日市羽津医療センター
看護部長
社会保険滋賀病院看護局次長を経て、
2014年4月より現職。

横浜保土ヶ谷中央病院
看護部長
横浜船員保険病院看護部長を経て、
2014年4月より現職。

大阪病院
看護部長
大阪厚生年金病院看護部長を経て、
2014年4月より現職。

企画経営部
患者サービス推進課長
全国社会保険協会連合会看護部長を経て、
2014年4月より現職。

吉澤 横浜保土ヶ谷中央病院は横浜市の西

入職し、誇りを持って働いています。

が当院で働きたいという情熱を持って

ることも大きな特徴で、多くの看護師

ビスを提供しています。患者さんだけ

約5600件と多く、幅広い医療サー

紹介率は60%を超え、手術件数も年間

を目標としています。現在、患者さんの

院、大阪府がん診察拠点病院として地

域連携を図り、地域から選ばれる病院

高橋 大阪病院は急性期病院が数多くある

大阪市西部に位置し、地域医療支援病

療・介護まで総合的に地域の健康を支

えることを目指しています。

（以下「訪看ST」を備え、予防から医

人保健施設や訪問看護ステーション

00件の手術を行っている他、介護老

床規模の病院でありながら年間約17

ます。また、急性期病院として、200

です。受健しやすい環境づくりに努め

ており、受健者は年間約11万人になり

ます。また、急性期病院として、200

床規模の病院でありながら年間約17

00件の手術を行っている他、介護老

人保健施設や訪問看護ステーション

（以下「訪看ST」を備え、予防から医

療・介護まで総合的に地域の健康を支

えることを目指しています。

田中 四日市羽津医療センターの特徴は、

健診事業を積極的に行っていること

です。受健しやすい環境づくりに努め

ており、受健者は年間約11万人になり

ます。また、急性期病院として、200

床規模の病院でありながら年間約17

00件の手術を行っている他、介護老

人保健施設や訪問看護ステーション

（以下「訪看ST」を備え、予防から医

療・介護まで総合的に地域の健康を支

えることを目指しています。

望月 JCHO病院として共にミッショ

ンを実現していくためには、お互いを

理解することが必要です。こうして看

護部長さんがじっくりと話をする機会

を持てたことは大きな意味があると思

います。私自身、直接語ってもらうこと

で理解が深まることを実感しています。

広がる可能性

スケールメリットを

最大限に活用

前野 JCHOという全国的なグループの

病院であるメリットや期待することは？

田中 教育面では、さまざまな病院の情報や

ノウハウを活かした研修を行うことがで

き、幅広く、専門的な学習ができます。

前野 現場の職員の反応はどうですか？

田中 ・・・まだ実感としてはないと思いま

す。が、そういった環境があることを知っ

てもらい、モチベーションアップにつ

なげていきたいと考えています。

JCHO病院として ミッションを実現するために

前野 JCHO病院がミッションの実現に

向けて進むためには、各病院が地域の

ニーズに応えるという同じ価値観を持

ち、職員のモチベーションアップを図

ることが不可欠です。また、グループの

他の病院を知ること重要ですので、

まずは各病院の紹介をお願いします。

田中 四日市羽津医療センターの特徴は、

健診事業を積極的に行っていること

です。受健しやすい環境づくりに努め

ており、受健者は年間約11万人になり

ます。また、急性期病院として、200

床規模の病院でありながら年間約17

00件の手術を行っている他、介護老

人保健施設や訪問看護ステーション

（以下「訪看ST」を備え、予防から医

療・介護まで総合的に地域の健康を支

えることを目指しています。

高橋 大阪病院は急性期病院が数多くある

大阪市西部に位置し、地域医療支援病

院、大阪府がん診察拠点病院として地

域連携を図り、地域から選ばれる病院

を目標としています。現在、患者さんの

紹介率は60%を超え、手術件数も年間

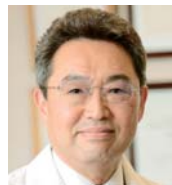
約5600件と多く、幅広い医療サー

ビスを提供しています。患者さんだけ

でなく医療者からも選ばれる病院であ



院長 君野 孝二



院長 島田 信也



院長 木村 正美



院長 竹口 東一郎



院長 亀川 隆久



院長 犀川 哲典



院長 白尾 一定

諫早総合病院

JCHO病院で一番は？最西端、平成24年度DPCデータ「一床あたり患者数」、4月の給与費対計画増減率「1」。今秋、長崎県は「がんばらんば国体」。諫早市は開閉会式と7競技開催。JCHO諫早総合病院も皆「がんばらんば」いかん。

熊本総合病院

一つのことを打ち込んでいれば、それぞれの人

人吉医療センター

九州山地、急流球磨川、温泉、球磨焼酎、国宝青井阿蘇神社、五木の子守唄、相良三十三観音、ラフティング、尺牘、SL人吉、いさぶろう新平号etc…。そして、JCHO HMC（人吉医療センター）@熊本県人吉市。

天草中央総合病院

新病院になり新たな気持ちで出発です。一般診療とともに診断から緩和ケアまでのがん診療、老人保健施設と連携した高齢者の医療、救急医療、地域の将来に関係する産婦人科、健診業務などに取り組みます。

南海医療センター

佐伯市民に信頼され、愛される病院であり続けるために、「患者さんに寄り添い、共に歩む」という気持ちを持って、心温まる医療を行います。キープレーズは、「組織は強固に、仕事は柔軟に」です。

湯布院病院

去年は嵐が吹き荒れた1年でございました。台風一過、雨降って地固まるを目指して、4月からはスリムになって再出発しました。職員と共に新たな歴史を築いていこうと頑張っております。宜しくお願いします。

宮崎江南病院

JCHO最南端の宮崎江南病院です。監査や税務署の調査が落ち着いたと思った矢先に、ノロウイルスの集団発生があり、記者会見まで行いました。職員が一致団結したお陰で、14日で収束し感謝しています。頑張るのみです！



院長 前場 隆志



院長 渡部 昌平



院長 山田 光俊



院長 多治見 司



院長 田中 真紀



院長 野田 晏宏



院長 浅見 昭彦



院長 中城 博見

りつりん病院

絶対的内科医不足という難題を抱え、必ずしも順風満帆な船出ではありませんが、ナポレオン曰く“リーダーとは希望を配る人”、職員一同にはいつも夢と希望を持たせたいと思っています。これからどうかよろしく。

宇和島病院

当院は地方都市の例に漏れずスタッフ不足が深刻です。短期間でもお力添え頂ける医師を募集しております。JCHOの職員派遣システムで宇和島伊達400年祭の歴史と文化の街にお出で頂けることを切望いたします。

高知西病院

規模、地域差のある病院群JCHO誕生。尾身理事長精神に基づき、大小に関係なく個々を大事にする、顔の見える暖かい関係を期待します。医療は、人と人との触れ合いが原点です。ありのままでLet It Go！

九州病院

当院は北九州地区の基幹病院で、たくさんの症例や手術に対応し平成24年よりDPCⅡ群に指定されています。それを可能にしているのは伝統に培われた職員のやる気です。今後もそれを大切に守り育てて行きたいと思っています。

久留米総合病院

念願の診療棟建て替え工事が始まり、工事の槌音に心地よさを感じています。職員一同、「新しい診療棟には、新しい設備を！」の気持ちで働んでいます。JCHO規程、建設工事、医療法改正等・・・楽しむことにしました。

福岡ゆたか中央病院

新機構での病院運営システムの劇的な変更対策、平成26年度診療報酬マイナス改定対策、消費税増による患者減対策などに、忙殺されています。いずれもタフな課題で、全職員の士気をいかに鼓舞すべきか、悩ましい毎日です。

佐賀中部病院

160床という中小規模病院なりの色々な問題に日夜神経をすり減らして格闘しております。仏心を捨て、鬼の采配に転換すべきか機構の皆様のご意見を頂戴しながら模索していきたいと考えている今日この頃です。

伊万里松浦病院

県境の過疎地で僻地医療に貢献しています。医師の高齢化（常勤医平均年齢53歳）と医師不足のため、院長自ら総合診療医指導医を申請中で医師の獲得に奮闘しています。職員一同、病院の建て替えを目指し頑張っています。

高橋.. 多くの施設の姿勢や取り組みをすることで日本の医療・看護の方向性を理解し、当院の立ち位置や役割がより明確になりました。

前野.. 人事交流という点でもネットワークを活用できますね。

高橋.. アウトプット、インプット両面で活用できます。当院は地元密着型の急性期病院としての実績があり、充実した教育体制を整えているので、他院の看護師も多くのことを学べます。逆に当院の看護師から異なる領域の看護を学びたいという希望が出た時にバックアップ体制があるのは心強いです。

前野.. 家庭の事情などで引越すことになった場合も、全国にＪＣＨＯ病院があることで退職せずにキャリアを積むことができます。キャリアを積むことは、職員にとって大きな安心になります。

吉澤.. そういったケースが最近２件ありました。キャリアを継続できる環境があることは、職員にとって大きな安心になります。

前野.. 潜在看護師の問題改善にもつながりますね。

望月.. そのためには育児支援も重要です。小さな子どもを持つ看護師が無理なく働けるようにサポートすると共に、希望する看護に携わることができる体制をつくることで、辞めずにキャリアをつんでいくことが可能になります。同時に復帰する看護師のサポートも大切です。本部では各病院の取り組みを参考にしながら、グループ全体の体制づくりに活かしていきたいと考えています。

個人の能力を伸ばし組織に活かす体制に

前野.. 地区事務所との連携で期待することはどんなことですか？

田中.. スペシャリストの育成は今まで病院の必要性に応じて行う傾向がありましたが、これからは個人の希望に応じて能力をのばし、ＪＣＨＯ全体の中で活躍できるようにすることが必要だと思っています。採用においても、入職者と病院のマッチング強化に取り組んでいただきたいです。

高橋.. ＪＣＨＯの名称はもちろん、理念やグループの活動を外部に発信することが必要だと思っています。患者さんや地域の方の安心感につながり、入職を希望する人に対するアピールにもなります。

吉澤.. 地元で働きたいというニーズが高いので、採用ではＪＣＨＯの特徴だけでなく病院の特徴も打ち出すことが重要です。また、必要な人材が必要な時に得られる、橋渡しの役割も果たしていただくことを期待しています。

田中.. 現在、当院で資格を取った感染管理認定看護師が、他のＪＣＨＯ病院で活躍しています。

望月.. お話に出たように、お互いの病院をサポートし合う体制と、質を高め合う体制をつくることが重要です。新人の頃は地元で働きたいという希望でも、キャリアをつむにつれて変わるケースは多くあります。そういった時に地区事務所のネットワークを活用できるようにしなければなりませんし、そういった体制があることを職員に知ってもらい働きかけもしていかなければと思います。

患者さん・地域の医療者の視点に立った地域連携

前野.. 地域連携は病院にとって非常に重要ですが、どんな取り組みをされていますか？

田中.. 積極的に院外に出て活動するようにしています。訪看ＳＴは開業医から高い評価を得ていますし、認定看護師が市民講座に参加するなど、地域に密着した活動を行っています。地域の医療者や住民と顔の見える関係を築くことが、より一層重要になると考えています。

高橋.. 当院には訪看ＳＴがないため、以前から地域連携に努めてきました。例えば、地域の多職種の医療者に参加していただく定例会議の実施や、院内外の医療者で構成するチーム医療推進などが挙げられます。さらに、地域の医療者にも協力していただき、外来看護の記録をまとめた本『継続看護 早く、短く、簡潔に残す！外来記録の書き方』（日総研）を出版しました。このような活動を通して、地域との距離が近くなったと実感しています。

望月.. その本、読ませていただきました。本では患者さんの退院後の生活が見えて、患者さんや地域の医療者にとってどんな医療や看護が必要なのかを考えさせられました。

吉澤.. 当院では、認定看護師が訪看ＳＴの職員と共に退院された患者さんを訪れてサポートに向く機会も出てきました。今後はよりスムーズにサポートできる環境を調整していくことが課題です。また、高齢者や認知症に詳しい地域包括支

援センターの職員の方に研修をしていただき、先方には当院の活動を紹介するといった連携も始めています。

望月.. ニーズにマッチした連携を図るためには情報が必要です。病院の機能をオープンに提供して、それぞれの環境や状況に合うようにコーディネートすることが、これから求められるでしょう。

高橋.. そういった情報交換をするうえでもフェイス・トゥ・フェイスの交流は大切です。そして、リソースナースが退院後の患者さんの生活を直接看ることで、より実践的な看護に改善していきたいと考えています。

病院と訪看ＳＴや老健のギャップをなくすことが重要

前野.. 訪看ＳＴや老健とはどのように連携しているでしょうか？

田中.. がんの患者さんは在宅を希望する方が多いのですが、病院にはそれを第一の選択として考える風土がないのが現状です。当院では、基本在宅で、ときどき入院できる退院調整に取り組んでいます。その際、訪看ＳＴの職員はもつと早い段階で退院できると考えていることもあるので、密に連携してギャップをなくすようにしています。老健は日

本でいちばん看取り率が高い施設で、地域に必要な場であるため、連携強化は不可欠です。

高橋.. 在宅への意識が低いのは、在宅の現状を知らないことが大きいですね。

田中.. はい。そのため、病棟の看護師が訪看ＳＴの職員と自宅を訪れる退院前訪問を行っています。

高橋.. 当院も看護師が在宅の状況を見ることが退院計画を書く率が高くなりました。やはり、現場を知るとやる気や使命感が湧いてくるのでしょう。

吉澤.. そういった取り組みをデータ化することは効果を明確にするだけでなく、職員のやる気にもつながるので大切です。ね。病院単位で完結するのではなく、グループ内で共有することで人材育成や体制づくりに活かせると思います。

ＪＣＨＯだからこそできる充実した研修

前野.. 「人材育成」という言葉が出ましたが、研修についてはどのようにお考えでしょうか？

田中.. 私自身これまでさまざまな研修に参加し、その中で信頼できる方との出会いがありました。規模が大きくなったことでそういったつながりがつくりやすくなるので、知識や技術の習得だけでなく、人脈づくりの場としても機能してほしいです。

望月.. 研修内容は中央と地区に分けて、効果を高めることが重要です。中央研修は、

さまざま職種が「看取り」や「災害」といったテーマについて考えを述べることで視野を広げ、看護観を養うことを目的にし、地区研修は現場の声を反映した内容をしていきたいと考えています。

高橋.. ＪＣＨＯの理念やミッションを浸透させるために、まず、現場のチームや雰囲気づくりの中心メンバーとなる中間管理職を対象にした研修を開くことが重要だと思っています。

ＪＣＨＯのブランド力を高める広報活動のポイント

前野.. それでは最後に本部へのリクエストがあればお願いします。

田中.. 患者さんや医療者に対して、ＪＣＨＯのブランド力を高める広報活動を行ってほしいと思います。

高橋.. ＪＣＨＯ全体の強みだけでなく、各病院の特徴や魅力も一緒に打ち出してもらえると、訴求力が高まるのではないのでしょうか？

吉澤.. ワークライフバランスや働く環境としての各施設の多様な取り組みが表現できると人材の確保にもつながると思います。

望月.. ＪＣＨＯを素晴らしい組織にするためには、各病院がＪＣＨＯの一員であるという意識を持つことが不可欠です。各病院にはさまざまな意見を出していただき、本部はそれをより良い方向にまとめていきたいと思っています。

前野.. 本日はどうもありがとうございました。【今回は第２回「院長に聞く」です】



JCHO × 浪江町

浪江町と医療・健康管理に関する
連携・協力の支援協定を締結

支援協定の締結にあたって

震災後3年を経過してもなお、全町避難を強いられている福島県浪江町民の方々は、二本松市内の仮設住居および借上げ住宅等に約2600名が避難、また県外約6000市町村に約6000名が避難されております。

二本松病院をはじめ全国に施設を有する当機構として、長期間にわたり今までの日常とは程遠い暮らしを余儀なくされている浪江町民の方々の健康と生命を守るため、5月7日に当機構と浪江町との間に医療・健康管理に関する連携協力の支援協定を締結させていただきました。具体的な取組みとしては、二本松病院からリハビリ専門職・管理栄養士の仮設住宅等への定期的な派遣、うつのみや病院から浪江町の仮設診療所への診療支援がすでに始まっています。今回はそれぞれの担当者の方にも記事を寄せていただきました。今後、県外避難者に対しての健康相談や健康指導に関しても各病院のご理解を得つつ、支援を行っていきたいと思っております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

〔医療担当副部長 長濱 晋佳〕

浪江町

平成23年3月11日は、朝から天気が良く春がすぐそこまで来ており、穏やかな小春日和でした。高校ではすでに卒業式が終わり、中学校

では子供たちが希望に胸ふくらませ、明日に向かって果立つ時を迎えておりました。

それぞれの春を謳歌しようとしている時、まさに、けたたましい地響きとともに大地震が発生し、津波、原発事故と連鎖的に被害が拡大し、尊い命と今まで守り築いてきた家屋・田畑、日々の暮らしまでも浪江町から何もかもを奪つてしまいました。3月15日、別れを告げた浪江町の3文字は、涙にかすみ、放射能による死の恐怖とゆくえ知らずの難破船に乗った焦燥感を全町民が感じながら、避難せざるを得ないこの刹那、生涯忘れることはありません。

かの地に避難して3年が過ぎ、いまだそれぞれに違った環境の中での避難生活が続く中、明日への希望を失い、心因ストレスを感じながらの避難生活は想像に絶するものがあります。そのことは、震災関連死330名が如実に表しているといえるでしょう。

そうした中、今般の独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）との協定にもあるとおり、診療所への医師の派遣をはじめ、全国にある関連病院での検査も含めた医療の享受がなされることに對し、浪江町民にとっても町にとってもこの上ない喜びであり、今後の生活に希望と活力を見い出すことができるものと考えております。

協定を結んでいただいたことに重ねて感謝申し上げるとともに、今後とも当町に対するご支援とご指導をお願いいたします。

〔福島県浪江町〕

活動報告 REPORT

二本松病院 リハビリテーション士長
江井 洋

「はなまる元気教室」を開催して

4ヶ所の仮設住宅集会所で週に1回40分程度の運動教室を開催しています。現在の参加者は1回につき15名前後で、おしゃべりしたり笑ったりしながら積極的に参加していただき、最近は集会所も皆さんの熱気で狭く感じられるようになりました。開催前に町職員の方から、昨年度の参加者は少なく、多くても7名前後とうかがい、当初は参加者がいないのでは？と不安もありましたが集会所に多くの方が足を運んでいただき、私自身も楽しみながら教室を開催しています。



活動報告 REPORT

2

二本松病院 栄養管理室長
渡部 淳子

『栄養講話』を実施して

仮設居住者の偏食や低栄養の改善を目的に栄養講話を実施しています。また、看護師長も同行し、血圧測定や運動中の見守りを行なう等、可能な限り院内からの応援体制を組んでいます。この記事を書いている今、ちょうど3回目の支援が終了したところですが、顔見知りになるにつれ、「その後、食欲は戻りましたか？」など生活背景を踏まえた会話ができるようになりました。参加者の皆さんと和やかで楽しい時間を共有できています。



活動報告 REPORT

3

うつのみや病院 健康管理センター
平川 隆一

浪江町国保仮設津島診療所での診療支援

4月7日から診療支援（毎週月曜日）が始まりました。内科医師が交代で行っています。朝7時2分の新幹線で宇都宮駅を出発し、福島駅に車で迎えに来てくださった紺野さんの運転で、8時半過ぎに着きました。

診療所では、所長の関根先生をはじめスタッフの方々が暖かく迎えてくださいました。最初に、診療所の機器や、薬剤等を説明していただきました。体制がわかり、助かりました。以前、診療所で働いたことがあるので、懐かしさを感じつつ診療しました。受診される方々も、初対面の私に、気軽に話してくださり、ありがたかったです。

診療の一コマです。高血圧で通院中の方が帰り際、昨日から親

指にとげが刺さったようで違和感がある、と話されました。午後に来られていた外科の佐川先生と一緒に診察し、解決いたしました。

貴重な一日でした。時間の調整ができましたら、また参加したいと思います。診療所のスタッフの方々、ありがとうございました。



日本医師会を表敬訪問

尾身理事長、本部理事らは平成26年6月3日、東京都駒込にある日本医師会に横倉義武会長を表敬訪問し、今後の協力関係を提案しました。

尾身理事長は会長、副会長、全国の常任理事が一堂に会する「火曜会」で、JCHOの活動内容を紹介し、「地元医師会の先生方が日々取り組んでいる地域医療において、足りない点を相談しながら後方、側方支援をしていきたい」と独立行政法人としての役割を説明しました。

さらに「在宅医療の連携や、かかりつけ医総合医をどのように育成していくか、IT活用や医師の偏在問題など、医師会と一緒に汗を流しながら考えていきたい。各地のJCHO病院では、地域医師会、自治体、住民代表者らの参加する連絡協議会を作って地域の意見やアドバイスをうかがう場にする。是非とも各地の医師会に対して協力を指示していただきたい」と要請しました。

横倉会長からは「新しくできたJCHOグループに対し、特に中小都市での期待が大きい」とのエールをいただきました。



日本医師会横倉会長と握手する尾身理事長

{ 総合診療医としての活動について }

星ヶ丘医療センター 呼吸器内科部長／総合診療部副部長
中村 孝人

{ JCHO 病院群における総合診療教育について }

研修センター長・総合診療教育チームリーダー
徳田 安春

教 育

当院は昨年から総合診療の活動を開始しました。

■15分カンファレンス

〔月曜日～金曜日 8時30分～45分〕
各医師が学んだことを15分で共有する時間としています。

木曜日は各専門科の先生方にミニ講義を行っていただいています。

■総合診療カンファレンス

〔金曜日 午後3時～4時〕
各専門科の先生方が集まり、その週の救急症例や外来症例を共有しています。内科医と外科医が意見交換する場としても貴重な時間です。

■総合内科入院症例回診

〔金曜日 午前8時30分～〕
ベッドサイドティーチングの時間として各専門科部長から症例ごとに徴候の考え方などのアウトプットをいただきますながら回診しています。



徳田先生、外来看護師長とともに

臨 床

■外来診療

〔月曜日～金曜日〕

■当直あるいは休日明けに緊急入院した内科救急患者の担当

ほとんどの先生方が兼任ですが、お互いに協力し合いながら科として基盤固めをしています。他科の先生方そして徳田先生との交流も増え、新しく学ぶ機会をいただいています！



神戸中央病院でのカンファレンス終了後の記念撮影

総合診療部門がいくつかのJCHO病院で立ち上がりつつあります。静かな立ち上がりですが、情熱的な医師集団がリーダーシップを発揮しながら確実に存在感を増しつつあると感じています。なかでも先頭集団としてのモデルプログラムを形成している、東京新宿メディカルセンター、星ヶ丘医療センター、神戸中央病院のJCHO3病院はかなりのスピードダッシュで走りだしています。このレポートでは、上記3病院で定期的に行っている教育内容について報告していきます。

東京新宿メディカルセンターには以前からチームグループが立ち上がっています。関根信夫副院長をリーダーとして、救急科、内科各科からジェネラルマインドを有する



東京新宿メディカルセンターでのミニレクチャー風景

優れた専門医集団が集結して、質が高く守備範囲の広い患者ケアを展開しています。私は毎週2日間、そのチームに加わり、ベッドサイドティーチング、ミニレクチャー、症例カンファレンスに参画しています。

私が毎月3日間、診療に参加している星ヶ丘医療センターでは、救急医学の大家である杉本壽院長のアドバイスを受けながら、呼吸器・腫瘍・感染症という幅広い分野を専門とする中村孝人先生を中心に総合診療部が立ち上がり、診断困難患者さんを受け入れ、教育のコア部門となっています。多数の医学生が参加する闘魂外来（診療主役型臨床実習）も並行開催し、のべ25名以上の医学生が集結し意欲的に実習しています。

総合診療医育成の取り組みについて

現在、JCHO病院全体で累計250名以上の先生方が認定医等の資格を取得しております。また総合診療に関する後期研修について、現在JCHOとして6つの研修プログラムがプライマリケア連合学会から認定を受けております。他医療機関と連携している病院を含めJCHOの10病院に参画していただいております。

その他の病院においても鋭意準備を行っていただいております。順調にいけば来年度はJCHOとして16研修プログラム、そしてJCHO内外の連携を合わせるとおよそ半分の病院が参画する形となります。まさに各病院の皆様のご尽力の成果の賜物と感じております。

【プライマリケア連合学会のプログラムに参画しているJCHO病院】

- プログラム策定病院
 - ・東京新宿メディカルセンター
 - ・東京蒲田医療センター
 - ・中京病院
 - ・星ヶ丘医療センター
 - ・九州病院
 - ・入吉医療センター
- 右記プログラム等の一部参加している病院
 - ・群馬中央病院
 - ・高岡ふしき病院
 - ・若狭高浜病院
 - ・可児とつうのう病院

医療担当副部長

長濱 誉佳



投稿者

埼玉メディカルセンター
地域包括支援センター長
松本由美子

プロフィール

埼玉県立衛生短期大学を卒業し、埼玉社会保険病院入職。整形外科病棟、内科病棟を経て平成10年5月介護老人保健施設サンビュー埼玉に異動。平成18年にセンター長(副師長)として地域包括支援センター設立より勤務。本務の他、埼玉県地域リハビリテーション推進協議会委員、さいたま市認知症地域支援推進員、東京医科歯科大学臨床教授。

地域包括支援センターとは

地域包括支援センターとは、地域住民の心身の健康の維持、生活の安定、保健・福祉・医療の向上と増進のために必要な支援を包括的に担う地域の中核機関です。平成18年に制度化され、市町村が設置主体となり、保健師、主任ケアマネジャー、社会福祉士を配置して、3職種が相互連携を図りながら介護予防ケアマネジメント業務、総合相談支援事業、包括的・継続的支援業務、権利擁護業務にあたっています。

院内のパソコン(PC)でWeb会議をしてみませんか

ご存知ない方もいらっしゃると思いますが、JCHOでは、JCHOネットに接続された院内のPCでLync(リンク)というソフトを使うことにより、だれでも病院・本部間や病院間でWeb会議ができます。JCHOでは、windowsの利用にあたり、マイクロソフト社と包括契約をしており、Lyncの利用について追加料金は発生しません。

初めてのときは自分の顔が映るので気恥ずかしいかもしれませんが、一度やってみると気にならなくなるでしょう。Web会議には以下に述べるメリットがあります。病院の皆さんもLyncでWeb会議をしてみませんか。

Lync会議によるパソコン画面(イメージ)



- ① 発言者：今、発言している方が動画で表示されます
- ② コメント：質問事項などを随時メッセージに記載していくことができます
- ③ 直近発言者：直近5名の発言者が表示されます
- ④ 会議資料：パワーポイント等の会議資料が表示されます
- ⑤ 本部の様子：本部にある360°カメラの画像。多数の参加者を一度に表示できます

JCHO「IT連絡会」をWeb会議方式で開催

JCHOでは、平成26年6月19日、Lyncを使いJCHOで初めての本格的なWeb会議となる「IT連絡会」を開催しました。参加者は47のJCHO病院、約90名でした。活発な意見のやりとりがあり、初めてのWeb会議としては概ね成功したと思います。

この会議では大人数での実施となりましたが、より少人数であればより実際に集まって行う会議に雰囲気近くなると思います。



IT連絡会の本部の様子

Web会議のメリット

Web会議のメリットは、移動・出張に要する①時間の節約、②費用(交通費、宿泊費)の節約、③頻繁に打合せすることによる、短時間で質の高い成果を得られることが挙げられます。時間と費用に制約がなければ、毎回、実際に集まって行う会議がベストですが、現実にはそうもいきませんね。最初の顔合わせは実際に集まって、次回以降の実質的な意見交換はWeb会議で、という活用方法も考えられます。

Web会議で大事なことは相手の顔をまじまじと見ることはありません。議論の中心となる会議資料が表示され、参加者がそれを中心に議論をすることです。Lyncではパワーポイント、ワード、エクセル等の資料を画面に表示することができます。また、LyncではWeb会議の内容を録画できるので、欠席しても後から見る事が可能です。

Lyncを使うためには、それぞれのPCに設定が必要になりますので、詳しくは院内の担当者に相談してみてください。



おれんじカフェ運営ボランティアと(前列左が筆者)

浦和区中部圏地域包括支援センタージェイコー埼玉は、さいたま市から委託を受け、JRR京浜東北線北浦和駅西口を中心に埼玉県庁、埼玉県警、さいたま市役所等、官公庁を含んだ圏域を担当しています。当センターでは平成25年10月より認知症カフェ【おれんじカフェ】を始めました。若年認知症の方から「居場所が欲しい」という声を受け、介護老人保健施設のデイケアのスペースを利用し土曜日に【おれんじカフェ】をオープンしています。【おれんじカフェ】は、自治会長、老人大学の卒業生、元介護者、認知症の人と家族の会世話人等の地域の強者がボランティアとしてカフェの運営をしており、当センターの職員はコーディネート役に徹しています。ランチは、あえて地域の飲食店に出向いて楽しんでいます。昭和の時代のスナックを思い出すような店内には、立派な最新のカラオケ機材もあります。お店のマスターは、「自分も高齢となり、病気もして周

りの人に助けられた。これからは地域に恩返しをしたい」と快く協力してくれました。参加した介護者からは、「楽しく外食が出来たのは久しぶり」「夫のカラオケを初めて聞いた」などの言葉が聞かれています。認知症の方とその介護者には、月に一度顔を合わせる仲間づくりができました。この輪を中心に、地域の中で高齢者が高齢者を支える仕組みが構築されつつあります。これからも認知症の方が住み慣れた地域の中でそのらしく暮らし続けることができるよう、支援していきたいと思っています。

今後の課題としては、医療との連携が弱いことです。これからは病院スタッフもどんどん地域に出ていくことが必要だと思います。地域に開かれた病院、介護老人保健施設が求められています。【おれんじカフェ】にも医師や看護師等が参加しミニ講座を開いたりできると嬉しいな、と私の夢は広がります。



カラオケで盛り上がる参加者